

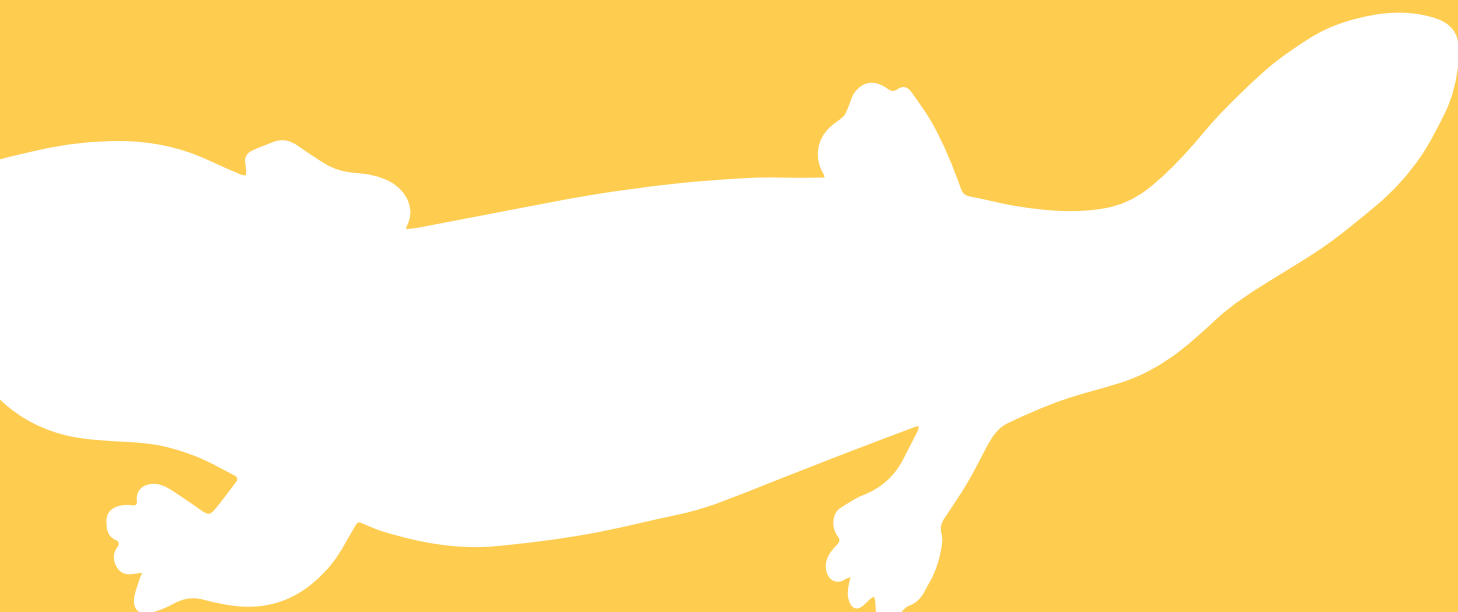
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

地域連携報告書

光華女子学園

環境報告書

令和4年度版



Index

地域連携報告書・環境報告書

1. 「兵戈無用」 ^{ひょうが むよう} ……………	01
2. 光華女子学園の概要 ……………	02
3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から ……………	03
3.1 地域に根差した大学を目指して ……………	03
3.2 明るく楽しいエコキャンパスであり続けるために ……………	03

地域連携報告書

4. 地域連携活動 ……………	04
4.1 地域との連携協定締結 ……………	05
4.2 本学の地域連携の取り組み ……………	06
4.3 右京区や周辺地域との連携 ……………	12
4.4 公開講座 ……………	15
4.5 健康・未来創造キャンパスを目指して ……………	17

環境報告書

5. エコキャンパスの推進 ……………	20
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量 ……………	21
① 電気エネルギー消費量	
② ガスエネルギー消費量	
③ 水道水使用量	
④ ガソリン消費量	
⑤ 軽油消費量	
⑥ 廃棄物排出量	
5.2 KOKA エコアワード ……………	24
6. 各校園の環境教育・環境活動 ……………	28
6.1 光華幼稚園 ……………	29
① 食育	
② 自然に触れよう	
③ エコ活動	
6.2 光華小学校 ……………	33
① 光華環境 DAY (9月16日)	
② エコに関する作品の取り組み	
6.3 京都光華中学校・高等学校 ……………	35
① 【高校】 京都+ベンチャーにて：SDGs ボードゲーム	
② 【中学】 中学生サミット in 神恵内： 原発のごみ処分やエネルギー問題について考える	
6.4 京都光華女子大学・短期大学部 ……………	36
① プナ・アシウスギ天然林サイエンスツアー 2022 の開催	
② グリーンサイエンスツアー 2022 の開催	
③ 地球環境クライシス（帝塚山学院高校での出張講義）	
④ 数値で見る京都の環境問題（北稜高校での出張講義）	
⑤ 里山サイエンスツアー 2022 の開催	
⑥ 2022 年度上半期定例会の実施	
⑦ VR と実験を通じた環境・エネルギー教育	
7. 第三者によるご意見 ……………	39
7.1 地域連携報告書に寄せて ……………	39
7.2 環境報告書に寄せて ……………	39

地域連携報告書・環境報告書

1. 「^{ひょうがむよう}兵戈無用」

昨今の世界情勢はもとより、わが国の国情を具に眺めると、人々の心に潤いのない殺伐とした世相が浮かび上がってきます。国民の多くが新型コロナ感染症に怯え、日々の生活に苦しみ、明るい未来が見通せません。新型コロナによる死者は既に6万人を超え、一部で医療崩壊をきたしている状況です。ウイズコロナ社会では自ら命を守る工夫が必要なのです。とは言え、日々の生活も容易ではありません。食費も光熱水費も高騰し、すべての生活必需品が相次ぎ値上げされ庶民を苦しめています。ところで、この生活環境の変化は何がトリガーになったのでしょうか。言うまでもなく、ロシアのプーチン大統領による理不尽なウクライナ侵攻が引き起こした戦争です。プーチンの理屈は、30年以上も昔のソ連邦時代には、もともとウクライナもロシア共和国として同じ国だったということです。しかしそもそもの国の成り立ちや一部の宗教の違いを考えれば、ロシアの一部の国民に理解されてもウクライナ国民や世界の人々には全く理解しがたい話です。力で捻じ伏せようとする企みは良識ある人々には通用しません。1年近く続くこの戦況を見て思うことがあります。『仏説無量寿経』というお経にある「兵戈無用（ひょうがむよう）」という言葉です。これは武器も武力（軍隊）もいらぬ、という意味です。釈尊は「不殺生」を唱えていましたが、その彼の時代にも、人が人を傷つけ、殺し合う行為はあったのでしょうか。武器をもって殺し合うのは、人間の最も愚かな行為ですが絶えることがないのです。さて、ウクライナとロシアに憎しみを増幅しているこの戦争は何を生み出したのでしょうか。両軍で戦死者は20万人を超え、民間人も4万人が亡くなり、避難民は3000万人にも上ると言われています。もちろんそれだけではありません。世界中を混乱に陥れたのです。ロシアは天然ガスや石油というエネルギーの輸出をストップしたり、極端に減らしたりするとともに、農産国ウクライナからの小麦等穀物の輸出を妨害し、世界にエネルギー不足を、またアフリカ中心に食糧不足を惹起しました。その結果、生産コストや流通コストの高騰を招き、各国は経済不況に陥っています。また、欧州では石炭火力発電を復活しているところもあると言います。これは明らかにゼロカーボン社会への逆行、すなわち環境対策の後退です。しかし、私たちは何としても地球の環境保全対策を前進させなければなりません。

ところで、光華女子学園は大谷智子裏方により創設されましたが、その建学の精神は仏教精神に基づく女子教育であり、「真実心」を校訓としています。これは慈悲の心すなわち「思いやりの心」を意味していますが、「利他の心」あるいは「寄り添う心」でもあります。ロシア正教にも慈愛の精神がある筈です。侵攻を決断する前に、為政者に他者を尊重し思いやる気持ちがあったらと悔やまれます。今ウクライナの人々は、ライフラインのすべてが壊され電気もガスも水道さえもなく、厳冬の生活を耐えに耐え、塗炭の苦しみの中で戦争の終結を願っています。私たちにできることは何か。少なくとも避難民留学生に対して「難民・避難民外国人留学生奨学金」制度を設け、京都での学びの環境づくりに僅かでも貢献することです。学生生徒も立ち上がりました。「京都光華ウクライナ支援チャリティーコンサート」の開催です。ウクライナ人アーティストと学生生徒による平和への願いを込めたコラボレーションには、参加いただいた地域の方々にも感動を与え、チャリティーの輪が広がりました。光華女子学園は今後も、共に支え合う教育を実践するとともに、常に地域の方々とともに考え行動してまいります。一刻も早くウクライナに平和が、世界に安寧が訪れることを祈念して。

光華女子学園 学園長・名誉理事長
阿部 敏行



2. 光華女子学園の概要

【沿革】

- 昭和14年 9月15日 財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
- 15年 4月 1日 光華高等女学校開設
- 19年 3月11日 光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
- 20年 3月29日 高女同窓会「激清会」発足
- 22年 3月15日 女専同窓会「ふかみくさ」発足
- 22年 4月 1日 学制改革により光華中学校開設（光華高女より）
- 22年10月10日 光華女子専門学校保健科を生活科に改称
- 23年 4月 1日 学制改革により光華高等学校開設（光華高女より）
- 25年 4月 1日 光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
- 26年 2月28日 学校法人光華女子学園設立認可
- 29年 4月17日 光華衣服専門学院開設
- 39年 4月 1日 光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置（短大文科を移行）
- 40年 4月 1日 光華幼稚園開設
- 43年 4月 1日 光華小学校開設
- 62年 4月 1日 短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
- 平成元年11月15日 総裁大谷智子裏方還浄（83才）
- 3年 4月 1日 真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
- 5年 4月 1日 短期大学、家政科を生活学科に改称
- 6年 4月 1日 大学、文学部に人間関係学科を開設
- 6年11月22日 光華衣服専門学院廃校
- 7年 4月 1日 短期大学、生活学科に4専攻を設置
- 9年 4月 1日 短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
- 10年 4月 1日 光華女子大学大学院開設
文学研究科（修士課程）、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
- 12年 4月 1日 光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称
光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称
英米文学科を英語英米文学科に改称
- 13年 4月 1日 光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更
大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
- 14年 4月 1日 短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部人間健康学科を設置
- 15年 4月 1日 大学、人間関係学部社会科学部を設置
- 16年 4月 1日 大学院人間関係学研究科（修士課程）を設置
京都光華女子大学カウンセリングセンター（人間関係学研究科附属施設）開設
- 17年 4月 1日 京都光華女子大学エクステンションセンター開設
- 18年 4月 1日 短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置
ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定
短期大学部にこども保育学科を設置
- 20年 4月 1日 大学、人間関係学部人間科学部に改称
大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称
大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
- 22年 4月 1日 大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置
人文学部に文学科、心理学科を設置
キャリア形成学部キャリア形成学科を設置
健康科学部に健康栄養学科を設置
- 23年 4月 1日 大学、健康科学部に看護学科を設置
- 25年 4月 1日 大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設
地域連携推進センター・環境教育推進室を開設
- 26年 4月 1日 大学、健康科学部に医療福祉学科（社会福祉専攻・言語聴覚専攻）、心理学科を開設
大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
- 27年 4月 1日 大学院に看護学研究科を設置
短期大学部 こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども教育学科を設置
- 28年 4月 1日 女性キャリア開発研究センターを開設
- 30年 4月 1日 大学に助産学専攻科を設置
- 31年 4月 1日 大学・短期大学部にリベラルアーツセンターを開設
- 令和 2年10月30日 富士小路まちやキャンパスを開所
- 令和 3年11月15日 光華もの忘れ・フレイルクリニックを開業
- 令和 4年 4月 1日 大学人間健康学群を設置

【学生・生徒・園児数（2022年5月1日 現在）】

大学院	31人
大学	1,844人
短期大学部	137人
高等学校	395人
中学校	125人
小学校	218人
幼稚園	200人
合計	2,950人

【教職員数（2022年5月1日 現在）】

区分	専任等	非常勤等	合計
大学院・大学	105人	181人	286人
短期大学部	11人	14人	25人
高等学校	31人	34人	65人
中学校	10人	7人	17人
小学校	19人	12人	31人
幼稚園	14人	9人	23人
職員	85人	55人	140人
合計	275人	312人	587人

【キャンパス】

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスです。西京極キャンパスには、国道9号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されています。また最寄りの阪急京都線「西京極」駅からは閑静な住宅街を抜け徒歩約7分です。

◆校地面積（2022年5月1日 現在）	
北校地	24,481.38㎡
南校地	18,823.00㎡
大原野グラウンド	14,308.00㎡
花の寺グラウンド	14,160.61㎡
富士小路まちやキャンパス	67.00㎡
合計	71,839.99㎡

◆校舎面積（2022年5月1日 現在）	
北校地	37,343.89㎡
南校地	23,067.18㎡
大原野グラウンド	435.58㎡
富士小路まちやキャンパス	67.00㎡
合計	60,913.65㎡

【所在地】

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38

最寄りの阪急京都線「西京極」駅から住宅街を抜け徒歩約7分



3. 地域連携推進センター・環境教育推進室から

地域連携推進センターと環境教育推進室は、地域との共生や活気あるエコキャンパスの実現をはかる拠点として、産官学連携によるまちづくりや地域の課題解決の他、本学の教育特性や知的財産を活かした公開講座及び、イベント等の開催をとおり、地域貢献、社会貢献を推進しています。

3.1 地域に根差した大学を目指して

古くからの伝統を守り、伝えていくことを大切にする京都にある本学、今年度も地域の皆様からの多大な協力を得て地域連携活動を行うことができました。これまで協力いただいた方からの紹介で、目指していた伝統産業とのコラボレーションや近隣企業様との商品企画が実現しました。それに関連して本学卒業生の方との出会いもあり、人と人のつながりを強く感じる1年となりました。

オンライン配信や定員を制限した公開講座も、地域の皆様の温かいご協力のもと無事実施することができました。人と人のつながりを大切に、すべての人が健やかに暮らせるウェルビーイングな未来に向けて、本学ならではの情報発信やイベントを開催したいと考えています。来年度は、「健康・未来創造」をテーマに本学7学科の特性を活かした講座を予定しています。また、地域の皆様に貢献できる新たなイベントも企画中です。是非、ご参加いただき、忌憚のないご意見をお聞かせください。

地域連携推進センター長
吉田 咲子



3.2 明るく楽しいエコキャンパスであり続けるために

2022年12月14日、第13回KOKAエコアワード表彰式が挙行されました。今回も1500件以上の多くの作品が寄せられ、環境配慮の意識啓発に貢献することができたかと思えます。このエコアワードは、当初、本学園で学ぶ園児・生徒・学生等からのみエコ作品を募集しておりましたが、回を重ねるごとに、教職員、保護者・ご家族、そして、本学園のお取引様まで拡大され、今では光華ファミリー事業として定着しつつあります。

さて、環境教育推進室が設置されて10年の月日が経ちました。この間、同室では学齢に合わせた各設置校での環境教育はもちろん、学内外におけるさまざまな環境活動を推進してまいりました。そして、これらの取組の中でも特に、中心的なものが上記のKOKAエコアワードであります。幼稚園から大学・大学院まで隙間なく学校組織のある光華女子学園の中でも、環境教育推進室が主催するエコアワードは学園唯一の横串事業と言っても過言ではありません。環境教育推進室が設置されてから10年間、室長として学園のエコを微力ながらけん引してきましたが、次年度からは、新メンバーのもとでスタートします。明るく楽しいエコキャンパスであり続けるために、各設置校とのさらなる連携と発展を期待しています。

環境教育推進室長
高野 拓樹



4. 地域連携活動





4.1 地域との連携協定締結

光華女子学園では、地域との連携活動を円滑に継続すると同時に、地域貢献と実学的教育をより発展させていくため、行政他、各種団体と連携協定を結んでいます。今年度は、下記の協定を結びました。

協定締結日	締結先	協定名
2022年6月24日	第一生命保険株式会社	包括連携協定
	<p>本協定は、以下の取り組み事項において地域社会の活性化及び発展に貢献することを目的としている。</p> <p>「包括連携協定」に基づく主な取り組み事項</p> <p>(1) 健康増進に関すること、(2) ワーク・ライフ・バランスの推進に関すること、(3) 子育て支援・保育対策に関すること、(4) 青少年育成・教育に関すること、(5) ライフプランサポートに関すること、(6) 高齢者支援・障がい者支援に関すること、(7) スポーツ振興に関すること、(8) 教育学術研究に関すること、(9) SDGs 活動に関すること、(10) その他地域社会の活性化及び発展に資する事項。</p>	

【これまでの締結一覧】

協定締結日	締結先	協定名
2010年11月7日	葛野学区自主防災会	葛野学区自主防災会との協定 - 大規模災害発生時における地域協力に関する協定 -
2011年11月4日	右京区役所、5つの大学	右京区大学地域連携に関する協定（5つの大学：京都外国語大学、嵯峨美術大学、花園大学、京都先端科学大学、立命館大学（2015年4月8日京都学園大学を追加））
2013年7月17日	高知県嶺北地域観光・交流推進協議会	嶺北地域観光・交流推進協議会との連携協力に関する協定
2014年3月8日	右京区役所、右京消防署	右京区役所、右京消防署と「防災及び災害時支援に関する覚書」
2014年5月30日	京都府立東稜高等学校	京都府立東稜高等学校との協定
2015年12月8日	京都市教育委員会	京都市教育委員会との相互連携に関する協定
2017年7月19日	京都府右京警察署	地域の安全・安心等に関する協定
2018年4月1日	株式会社ノーリツ	株式会社ノーリツとの「おふる部」に関する覚書
2021年5月14日	京介食推進協議会	京介食推進協議会と産学連携プロジェクトに取り組むための包括協定
2021年10月7日	株式会社エイデル研究所	リカレント教育「次世代ケアワーカー育成プログラム」に関する協定書
2022年3月1日	京都市	京都市と京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部とのふるさと納税を活用した大学・学生と地域の連携強化等に関する協定書

4.2 本学の地域連携の取り組み

■ 産官学連携プロジェクト

地域連携推進センターが運営する正課科目として、「産官学連携プロジェクト」を開講しました。この科目は、大学のリベラル・アーツ教育科目に設定されているため、すべての大学生が受講することができます。実際の課題をプロジェクトとして推進する過程で、学生は考える力やチームで働く力といった社会人としての基礎力を養成すると同時に、現場での実践力を高めます。これまでの連携先は、大手企業、地域の中小企業や商店街、NPO、福祉法人、学校など多岐に渡ります。

2022年度に開講された「産官学連携プロジェクト」

a	テーマ：地域との連携を通じた学びと成長	連携先：京都市中京区「京都三条会商店街」
	担当教員：西 孝一郎（こども教育学科）、吉田 咲子（キャリア形成学科）	
	京都市中京区「京都三条会商店街」と本学は、これまで各種イベントの開催を通じて地域との交流を図るとともに、同商店街の賑わいに貢献してきた。今年度も地域児童が楽しんで参加できる企画を検討し、5月に商店街理事の方にアドバイスをいただき7/2の七夕夜市に出店参加した。	
b	テーマ：地域との連携を通じた学びと成長	連携先：東洋竹工株式会社・向日市観光協会
	担当教員：高野 拓樹（キャリア形成学科）、金治 宏（キャリア形成学科）	
	荒廃が進む竹林問題に焦点を当て、竹とその歴史や有効利用について学び、持続可能な竹林整備についてボランティア活動などを通じて考察する。今年度12/23には、学Boooの2団体とも連携し、「バンブーキャンドル×プロジェクションマッピング」を実施。夜の学内で地域の子どもたちが竹細工を製作した。	
c	テーマ：「私たち目線」で提案する仁和寺のプロモーション展開	連携先：真言宗御室派仁和寺
	担当教員：朝比奈 英夫（キャリア形成学科）、大島 祥子（キャリア形成学科）、土居 淳子（キャリア形成学科）、佐藤 嘉洋（キャリア形成学科）	
	コンソーシアム京都が主催する世界遺産PBL科目の一環として、「仁和寺」（右京区）と連携した授業。仁和寺の文化財保護や経営戦略等の講演を聴講し、仁和寺から提示された現状の課題を緩和するためのショート動画を活用した展開を提案し成果報告会で発表。本学学生の他、立命館大学の学生も参加した。	
d	テーマ：データで見る人口減少社会と将来の防災まちづくり	連携先：右京区役所、右京消防署ほか
	担当教員：土居 淳子（キャリア形成学科）、佐藤 嘉洋（キャリア形成学科）	
	統計データから社会の将来像を明らかにするデータ分析力に加え、外部機関と連携し、避難・避難所運営に関する提案書の作成や避難所の模擬運営を行うなど、企画力・実践力を身につける。今年度は、右京区役所・右京消防署、葛野学区地域住民の協力のもと、1/14に避難所開設・運営の模擬訓練を行った。	
f	テーマ：地域と連携して介護予防（口腔機能低下予防）支援に取り組む	連携先：京都市右京区地域介護予防推進センター
	担当教員：関 道子（医療福祉学科言語聴覚専攻）	
	地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能の低下を予防し、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を行う活動に取り組む。2018年から継続している、大学で行う介護予防サロンを企画・運営し、地域との実践的な連携を経験する機会となった。今年度授業期間中は、同サロンは3回開催した。	

* e は今年度不開講



【産官学連携プロジェクト活動の様子】



a三条会商店街での七夕夜市



b「バンブーキャンドル×プロジェクションマッピング」



c 仁和寺でのフィールドワーク



d 体育館での避難所運営模擬訓練



f 介護予防サロン

■「学まち連携大学」促進事業

2020年、京都市及び（公財）大学コンソーシアム京都の「学まち連携大学」促進事業に採択された本学の取り組み「京で学び・京で働き・京に暮らす～地域連携型プログラムの展開～」では、3年目の事業を下記のとおり実施しました。本学では、これまでの地域と連携した教育を展開し、学生の京都定着と卒業生や地域住民の再就職及びキャリアアップを目指すべく、学生に向けた授業や社会人を対象に下記の取り組みを実施しています。



「プロジェクト実践」西陣織で作ったブックカバー

2022年度の取り組み

項目	内容
まちやサテライト キャンパス活用	<p>キャンパスを利用した科目 地域連携型科目：「プロジェクト実践」、「産官学連携プロジェクト」 各種講座：京都光華文化講座、ヨガワークショップ その他ゼミ、研究会等での使用*まちやキャンパス使用例参照</p>
地域連携型教育の拡大	<p>今年度は、授業連携先の影響に伴う授業内容の変更や受講生の減少にともなう不開講授業もあったが、14科目を開講した。昨年度のカリキュラム変更において必修科目に地域連携科目を採用した結果、1年生・2年生の全員が1科目以上の地域連携科目（「ライフデザイン・コンピテンシーⅡ c・d・e」、「ライフデザイン特論 b・h」、「京の伝統文化を創る」、「くらしに生きるものづくり」、「商品企画論」、「ユーザー体験価値デザインⅠ・Ⅱ」）を受講した。*下記ライフデザイン学科地域連携型科目例を参照</p>
リカレント教育	<p>京都中小企業家同友会に協力いただき、リカレント生との面談後、ニーズにあわせた職場見学を実施した。また、離職期間のあるリカレント生には、職場復帰支援として希望業種で「実践型インターンシップ」を実施した。</p>

今年度新たに開講したライフデザイン学科での地域連携型科目

ライフデザイン・コンピテンシーⅢ 担当教員：青木 正明・羽深 太郎・小山 理子・辻野 孝・鹿島 我
令和4年度に新たに開講した2年生全員が履修する必修課目。京都市で創業300年を超える株式会社松栄堂と連携し、移動販売車を使用したお香の販売や認知度を広げる活動について、グループワークを行い企業に提案するPBL型授業を行った。
ライフデザイン・コンピテンシーⅡd 担当教員：羽深 太郎
京都市寺町京極商店街振興組合と連携した授業。学生の視点で商店街の魅力を洗い出し、ポスターやSNSを通じて伝えるアイデアをまとめ、商店街が抱える課題について学生の視点で評価・分析し、商店街に報告。学生の提案の一部が商店街で採用を検討されることとなり、次年度も継続して連携する事となった。
ユーザー体験価値デザインⅠ 担当教員：羽深 太郎
コトのデザインを通じてお客様に価値ある体験を提案する授業。今年度は青木光悦堂が行う高齢者施設向けおやつ宅配サービスにおいて、新商品やレクリエーションを検討。また、京都市で水産加工品販売の株式会社アイステーションとパッケージデザインを通じたお客様とのコミュニケーションについて学習した。



「プロジェクト実践」試作品



「京の伝統文化を創る」舞妓との交流



「ライフデザイン・コンピテンシーⅡd」
寺町京極商店街でのフィールドワーク



「ユーザー体験価値デザインⅠ」
株式会社アイステーションによる講義

■ 富小路まちやキャンパス（中京区富小路御池下ル松下町）使用例

京都の伝統的な住まいである町家で、学生・生徒・児童・園児 に対する教育活動を実施していくために、2020年10月に開設された「富小路まちやキャンパス」では、授業や、学生の企画発表、各種講座やワークショップ、卒業生を交えた意見交換会の会場として使われています。



今年度使用例	
4月21日 10月16日	<p>正課授業「プロジェクト実践」 担当教員：栗山 文孝（キャリア形成学科非常勤講師）</p> <p>1年次に学んだプロジェクトマネジメントの知識とスキルを前提に、地域社会などが抱える課題を解決するためのプロジェクトを実践し、社会人基礎力を養成することを目指す本授業では、庭師の専門家によるまちやキャンパスの庭の講義や京町家を一般公開する「町家ももの家」を開催し、ワークショップや物販をとおして京町家の魅力を発信した。</p>
9月17日	<p>地域向けワークショップ 担当教員：谷本 拓郎（心理学科）</p> <p>ヨガとマインドフルネス瞑想を合わせた一般向けイベント。様々なマインドフルネス技法（呼吸瞑想、慈悲の瞑想、ボディスキャン瞑想など）について、座学及び実践を通じた体験型ワークショップを開催。姿勢調整や陰陽ヨガなど各種ヨガレッスンも実施。まちやの情緒的な雰囲気と親和性があり、複数回の参加者もいる。</p>
10月22日	<p>まちや合同作品展 担当教員：長者 美里（光華女子学園 学園長補佐）</p> <p>柳池学区（京都市中京区、まちやキャンパスのある地域）の習字教室による書と京都光華中学校・高等学校の生徒が制作した美術作品を展示。和室だけでなく土間の壁や棚を十分に使い、作品を鑑賞しながら、希望者には高校茶道部によって呈茶が行われた。当日は時代祭りの開催日でもあり、地域の方と本学の中高生、保護者の交流だけでなく、時代祭りを訪れた観光客がまちやキャンパスにも出入りする一日となった。</p>
11月7日	<p>京都光華文化講座・卒業生交流会</p> <p>京都光華文化講座；多様な業界で活躍している光華の卒業生をゲストスピーカーにした講座において、地域の方に向けて専門業界の現状等を学ぶ。同日は、西陣織の今河織物株式会社から今河真代氏を講師に迎えた。講座終了後は、卒業生を中心に、働き方や生き方について意見交換をする会を実施。関東在住の卒業生も交え20～50代の卒業生が交流している。</p>
<p>その他、地域高齢者との交流会やスマホ教室（4.5「健康・未来創造キャンパスをめざして」参照）や、個別ゼミプレゼン、研究会などを開催した。</p>	



庭師による実習



「町家ももの家」



文化講座



まちや合同作品展

■ 各学科の取り組み

本学では正課科目「産官学連携プロジェクト」だけでなく、各学科の特性・専門性に応じて、さまざまな企業や団体と連携した取り組みや授業を実施しています。

実施日・会場	内 容
前期 10 回 後期 9 回 慈光館保育実習室	光華こどもひろば 担当教員：和田 幸子（こども教育学科）
	2013 年から学内で継続実施している光華こどもひろばでは、地域の未就園児親子が自由に安心して遊べる場を提供。特別企画「おたのしみ劇場」「おもちゃ講座」では、学生による企画、劇団によるお芝居、こどもおもちゃ専門店の店主による講義などを実施。
6 月 1 日～ 28 日 近畿地区 イオンスタイル85店舗	『そうだ、野菜とろう！弁当』販売 担当教員：齊藤 曜子、小島 菜実絵、永井 亜矢子、桑島 千栄、下山 亜美（健康栄養学科）
	京都市による『そうだ、野菜とろう！』キャンペーンに合わせ、イオンリテール株式会社と管理栄養士養成校 3 校（本学・同志社女子大学・京都女子大学）による産官学連携の弁当販売企画。健康栄養学科 4 年生が『混ぜ込みおにぎりとチキン南蛮和え弁当』等のレシピを考案。
7 月 9 日 12 月 17 日 太子堂	失語症サロン「おこしやす」 担当教員：松田 芳恵（医療福祉学科言語聴覚専攻）、瀧澤 透（客員教授）
	「相手の言っていることが良く理解できない」「言いたい言葉が出てこない」「新聞が読めない」というような同じ悩みを抱える方が集まり、学生（学 Boo「コミュニケーション支援プロジェクト」メンバー）が考えたゲームで参加者と交流するサロンを 2019 年から実施。
9 月 21 日、22 日 イオンモール京都五条	イオンモール京都五条従業員向け食事提供 担当教員：桑島 千栄、永井 亜矢子、小島 菜実絵（健康栄養学科）
	管理栄養士専攻 2、3 年生が中心となり栄養バランスを考慮したメニューを考案。同店専門店の従業員の方を対象に、地元京野菜を使用した“豆乳カレースープ”と“ミネストローネ”を提供した。SDGs 視点から容器やスプーンには環境負担が少ない資材を使用。
11 月 5 日 第一体育館	こども食堂運動会 担当教員：金治 宏（キャリア形成学科）
	NPO 法人 happiness(京都市南区)と協働し、「子ども食堂運動会」を開催。ハンカチ落としなどのゲームや玉入れ、リレーといった運動会の定番競技を通して交流し、子どもたちに楽しい時間や経験を提供することを目的に、社会的孤立を学ぶ学生が企画、実施した。
正課 「栄養教育論実習Ⅰ」	京の食をテーマにした教材作成 担当教員：巽 美奈子（健康栄養学科）
	栄養教育を実践するためにグループワーク、プレゼンテーション等を通して実習する本授業では、「京の食文化ミュージアムあじわい館」（京都市下京区）と連携。フィールドワークを実施し、京都の食をテーマにした情報誌を作成。専門職連携基礎の教材として配布した。
正課 「調理実習基礎・応用」 「調理学」	食品メーカーによる講義 担当教員：下山 亜美（健康栄養学科）
	調理の基礎的な技術や理論を学ぶ本授業では、「雪印メグミルク株式会社」や「株式会社明治」といった府内に工場のある食品製造企業による製造食料品（チーズやヨーグルト）や「骨・カルシウム」「女性の健康美」についての講義を実施した。



<p>正課 「健康プロジェクトII」</p>	<p>地域企業からの学び 担当教員：水道 裕久、吉川 秀樹、原 正美、下山 亜美（健康栄養学科）</p> <hr/> <p>学生自らが「健康に役立つ食品」の企画・提案と試作を行う本授業では、実践活動を行う上での知識・技術習得の一環として、地元の武田薬品工業株式会社京都薬用植物園（京都市左京区）等の見学や和菓子店青洋（京都市北区）等による和菓子に関する講義・実習を行った。</p>
----------------------------	--



光華こどもひろば



失語症サロン



イオンリテールでの「そうだ野菜とろう！」弁当販売



「京の食文化ミュージアムあじわい館」でのフィールドワーク

4.3 右京区や周辺地域との連携

■ 右京区まちづくり支援制度

本学は、平成22年度から右京区が主催する助成制度に申請し、これまで多くの提案事業が採択されてきました。採択された提案事業を進めるプロセス；申請書類を提出し、公開プレゼンテーションで審査を受け、活動終了後に最終報告会で発表することは、学生にとって授業では習得することができない実践的な学びの機会になっています。今年度は右京区まちづくり区民会議（3月1日）において、ポスターセッション等で報告し、参加者と交流する予定です。



採択事業（2022年度）

KOKA ☆オレンジサポーターズ 担当教員：関 道子（医療福祉学科言語聴覚専攻）	
事業名	お口の介護予防（オーラルフレイル予防）を応援しよう！
概要	KOKA ☆オレンジサポーターズは、人と話をする機会が減少している地域の高齢者の方々を対象に、口腔機能低下の予防と、いつまでもおいしく安全に食べ続けることの啓発を目的とした取り組みを2018年度から実施している。今年度は、前年度の取り組みを改善し、以下の取り組みを企画・実施した。 1. 大学でのお口の介護予防サロンの開催、2. 地域の認知症カフェ等の活動の場への出張参加、3. 地域の高齢者との「電話おしゃべり会」の開催、4. お口の介護予防についてのパンフレット作成。
craft up! 担当教員：吉田 咲子（キャリア形成学科）	
事業名	作って照らそう！光のアートプロジェクト
概要	右京区に住む親子を対象とし、クラフト教室やイベントをとおして、コロナ禍で外に出られなかった子どもたちに遊びの場と世代間交流の場を設ける。10月には、葛野児童館と京都ファミリーでペットボトルランプのクラフト教室を開催。ペットボトルランプの魅力を伝えるため、11月には、10月のクラフト教室で制作した作品を本学の学園祭において「光のアートプロジェクト」とし、企画・展示した。12月には、自宅にあるものがリサイクルできることを学び、体験できるクラフト教室を開催した。



電話おしゃべり会



まちづくり支援制度プレゼンテーション



京都ファミリーでのイベント



■ 右京サンサにここ広場

右京区では、子どもたちの健やかな成長と安心して子育てできる環境づくりを推進していくため、例年「右京子育てサロン サンサにここ広場」(実行委員会事務局:健康長寿推進課)を開催しています。感染症対策により、6つのコーナーを回るスタンプラリー形式で実施され、昨年より入場者数を増やして100組とし、多くの親子でにぎわいました。

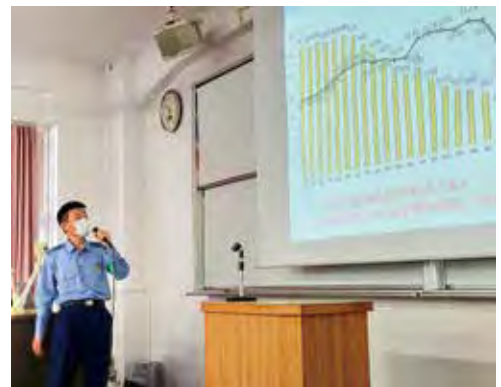
第13回右京子育てサロン サンサにここ広場 担当教員：永本 多紀子 (こども教育学科)	
日 時	11月8日 午前10時～12時
出 展 内 容	今年度は、こども教育学科の4年生3人が運営に参加し、親子の触れ合い遊び「バスにのって」とエプロンシアター「おべんとうバス」に取り組みました。学生は、地域行政が取り組む子育て支援に参加し、保護者の話を実際に聞いたり、お子さんと直接交流したりしたことで、保育職に対する気持ちを新たにしていました。



親子ふれあい遊び「バスにのって」

■ 右京警察署との連携

本学は、京都府右京警察署と地域の安全・安心等に関する協定を締結していることから、それぞれの持つ専門分野を活用して相互に連携し、地域の安全・安心及び双方の業務・教育の充実を目的としています。今年度は、心理学科1～3年生が右京警察署より講義を受けました。専門家による犯罪情勢や防止策の知識と護身術の講義は、自分も被害者になり得るかもしれないという危機感を持つことができ、貴重な体験となりました。また鑑識課の方のご指導のもと指紋等を採取する体験や、高齢者宅への巡回訪問は、社会心理学に関心のあるゼミ生には、警察業務の一現場や社会に生きる人との接点を知る機会となり、卒業後の生き方を考える上で、印象深い授業にもなりました。



警察官による犯罪情勢についての講義

正課「社会心理学入門」、「司法・犯罪心理学」、「心理学専門演習Ⅰ」 担当教員：竹西 正典 (心理学科)		
6月3日	「社会心理学入門」	「幼児の交通安全」と「少年非行」について
6月14日	「心理学専門演習Ⅰ」ゼミ	なでしこ交番見学(鑑識体験、女性警察官による講話等)
7月5日	「司法・犯罪心理学」	犯罪情勢と護身術について 「女子大学生が気を付けること」



鑑識体験



護身術体験

■ 右京消防署との連携

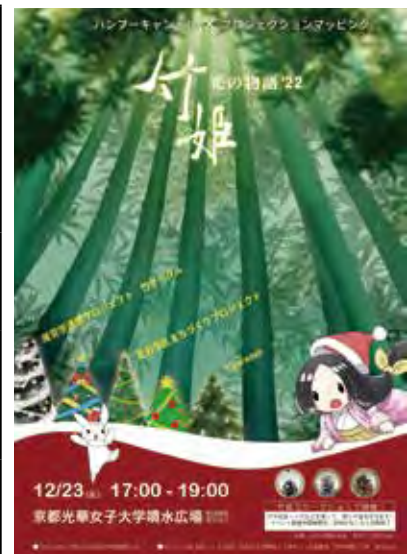
右京消防署と本学は、減災リーダー育成の視点から防災訓練や普通救命講習等において連携しています。今年度は3年ぶりにあかね祭が開催され、11月12日(土)には、本学の防災サークル「daisy」とともに防災啓発を目的に出展しました。消防隊員(2名)の協力を得て、起震車、消火器、防火衣(園児・児童対象)コーナーを設置。体験者(延べ人数300人)には、非常食サンプル(お湯や水でできるおにぎりや長期保存可能なパン)、京都市消防局のノベルティグッズを配布しました。



■ 葛野自治会連合会との連携

葛野自治会連合会とは、今年度も各取り組みにおいて相互に協力し、関係構築を続けております。

6月9日	葛野学区自主防災会総会：前年度決算報告と今年度事業計画・予算について審議
7月3日	クロスロード研修会：葛野集会所において、学区内自治会・ブロックの代表が集まり、右京消防署員による緊急時に備えたカードゲーム形式の防災学習に参加
11月6日	葛野学区防災訓練：葛野学区避難所運営訓練や自主防災資器材の取扱訓練、段ボールベッドの組立体験
12月23日	「竹姫光の物語' 22」：地域の方を対象に、産官学連携プロジェクトb「竹サークル」と学Booo「葛野まちづくりプロジェクト」[I'scream]が竹細工ワークショップを企画
1月14日	避難所模擬運営：産官学連携プロジェクトd履修学生、外部機関(右京区役所・右京消防署)、地域住民が協働し避難所開設・運営



■ 「明後日朝顔プロジェクト」

右京区地域介護予防推進センターと連携し、環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」(5名)とこども教育学科3・4年生(谷本寛文ゼミ8名)が「明後日朝顔プロジェクト」の種を植え、学内の花壇で朝顔を育てました。「明後日朝顔プロジェクト」は、2003年新潟県十日町筋平にて始まったアートプロジェクトで、地域で朝顔を育てる風景や、栽培を通して生まれる人とのつながりを大切にする目的があり、右京区内地域包括支援センターや保育園、デイサービス施設、光華幼稚園等で育て、地域住民や施設利用者とともに成長を共有しました。収穫した種は、今後も全国で受け継がれます。





4.4 公開講座

本学では、知的財産である本学教員の専門知識や研究成果を広く一般に公開し、地域の方々に生涯学習の場を提供することを目的として、各種公開講座を提供しています。健康・未来創造キャンパスを目指す本学は、今年度「人生100年時代、すこやかに、あざやかに生きる」をテーマで、地域の皆様に身近な話題で講座を実施しました。今年度も感染症拡大防止の観点から、一部開催延期とした講座もありましたが、対策を講じながら実施しました。

公開講座（2022年度）

実施日・会場	タイトル・講師
6月25日 小講堂	「健康的な食事と口腔衛生」 (1) う蝕（むし歯）と歯周病の原因と予防 (2) 健康的な食事
	(1) 水道 裕久（健康栄養学科教授） (2) 原 正美（健康栄養学科教授）
9月3日 第一体育館	自宅で手軽にできるストレッチ、ボール運動の体験
	内田 和寿（こども教育学科准教授）
10月29日 小講堂	「出羽と京をつないでいた鮮やか過ぎる紅のお話」
	青木 正明（ライフデザイン学科准教授） 長瀬 正美（映画「紅花の守人」製作委員会会長） 佐藤 広一（映画「紅花の守人」監督）
2月11日 聞光館 251教室	認知症になっても暮らしやすい地域をつくる
	金治 宏（キャリア形成学科准教授） 橋本 千恵（チーム上京！）
2月18日 小講堂	認知症の方との関わりを考える
	窪内 敏子（看護学科准教授）



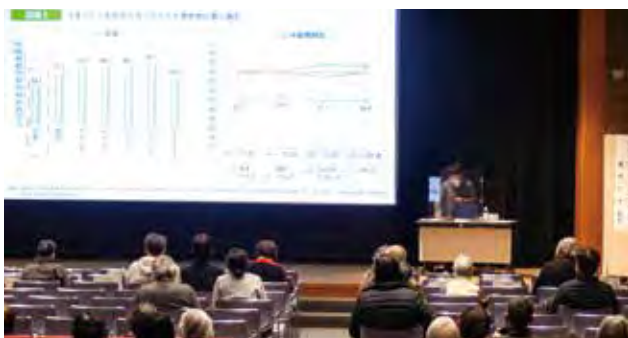
公開講座

その他の講座（2022年度）

講座	実施日・会場	タイトル・講師
まちづくり講座	5月28日 太子堂	認知症に見られるいろんな症状には、実は理由があります！ 上田 敬太（医療福祉学科言語聴覚専攻教授 光華もの忘れ・フレイルクリニック院長）
	7月2日 太子堂	発達障害のある方の進学・就労のサポート ～医療・福祉・教育の連携を通じて～ 浜内 彩乃（医療福祉学科社会福祉専攻講師） 井倉 未樹（医療センター公認心理師）
	10月8日 1号館203教室	—ねこも、家族も、健康に暮らす！— 「持続可能な、まちづくり」を考える 千葉 晃央（医療福祉学科社会福祉専攻講師） 小池英梨子（NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク「人もねこも一緒に支援プロジェクト」代表）
	12月3日 太子堂	コロナ禍を通して見えた地域の高齢者の課題 ～高齢者にとって住みやすい地域を目指して～ 高橋 岳大（京都市梅津地域包括支援センター）
まちやワークショップ	9月17日 まちやキャンパス	癒しへ導くヨガとマインドフルネス 谷本 拓郎（心理学科講師）
文化講座	11月17日 まちやキャンパス	人生の転機をプラスに変える—女子大学でできること— ～卒業後のキャリアと伝統産業西陣織の現状 今河 真代（卒業生・今河織物株式会社）
	1月7日 京都アカデミアフォーラム @東京丸の内	人生の転機をプラスに変える—女子大学でできること— 愛されるキャリアの秘訣 和田 裕美（キャリア形成学科客員教授・卒業生）
京都アスニー 特別講演会	2月10日 京都アスニー	絵本に学ぶレジリエンス（逆境にめげない力） 徳田 仁子（心理学科教授）



まちづくり講座



京都アスニー特別講演会



文化講座



4.5 健康・未来創造キャンパスを目指して

医療、福祉、栄養、スポーツ、教育、心理、社会、マネジメント、ライフデザインなど幅広い分野の研究・教育を通して人々の「健康」と「未来」を創造する女性を養成し、すべての人が健やかに暮らせる「Well-Being」な未来の実現を目指して、学生だけでなく地域に寄り添い、社会の要請に応えたく、様々な取り組みを実施しています。

■ 柳池学区交流会

柳池学区交流会は、誰もが自分らしく暮らすことのできるまちをつくることを目標に、富小路まちやキャンパスを会場に6月19日(参加14名)と10月29日(参加25名)に開催しました。開催のきっかけは、認知症とともに生きる高齢者から「地域になじめる居場所があれば…」という声をきいたことです。その高齢者が本学の持つまちやキャンパスと同じ中京区の柳池学区で暮らしていたご縁で、近隣地域に暮らす高齢者にも呼びかけ、交流会を開催しました。



9月21日には、「認知症フォーラム 認知症とともに2022」(主催：京都市長寿すこやかセンター)が、中京区QUESTION4階 コミュニティステップスで開催され、キャリア形成学科3年の学生が登壇し、この取り組みについて「認知症サポーターの私たちができること」というタイトルで発表しました(オンライン同時配信)。

■ スマホ使い方講座

高齢者のつながりづくりを目的に、富小路まちやキャンパスにてキャリア形成学科の学生有志が9月22日(参加8名)と11月7日(参加15名)、12月5日(参加8名)、2月13日(参加3名)の計4回開催しました。参加者のニーズは「スマホの基本的な使い方を知りたい」といった入門的なものから写真の撮り方、LINEでのビデオ通話、そして動画編集といった高度なものまで多様で、参加者の質問に1対1の形で答える形式で対応。参加者に合わせた交流ができました。



チームまちやキャンパス(キャリア形成学科ゼミ3年生)
担当教員：金治 宏

孤立不安社会を理解する/分析する視点を学びながら、地域住民や社会課題の現場で活躍している人たちと交流し、孤立を克服する活動に取り組んでいます。

参加学生は「チームまちやキャンパス」として「輝く学生応援アワード2022*」に応募。「まちキャン世代間交流会—私たちの出番・役割を発見する—」と題し、プレゼンテーション審査(12月4日)を経て入賞することができました。2月4日には、第3期中京区基本計画の「中京みらい図鑑」(開場：中京区役所)にてポスターセッションに参加し、これらの活動を発表しました。

*「輝く学生応援アワード」：京都のまちの活性化や社会に貢献する学生の活動を総合的にサポートする取り組み「輝く学生応援プロジェクト」の一環として実施され、主体的に活動を行っている大学生を広く讃え、後押しする機会として「輝く学生応援アワード」を開催し、表彰しています。



輝く学生応援アワードでの発表



中京みらい図鑑

■ 認知症啓発に関する取り組み

京都市健康長寿企画課、京都光華女子大学図書館と連携し、若年層にも広く周知するために、認知症啓発に関する次の取り組みを実施しました。(1) 世界アルツハイマー月間における大学図書館での特別展示では、図書館入り口付近に認知症に関する図書コーナーを設置。ポップやポスター等を掲示し、専門書から易しく読める個人手記、DVD等を紹介しました。(2) 9月13日、14日の「オープンライブラリー」(京都市在住の方に無料開放)では、特別企画「認知症を知る」を実施。認知症に関するデータや資料展示の他、光華もの忘れ・フレイルクリニック院長が作成したスライドや簡単なチェックリスト等によりわかりやすい情報が紹介されました。これに合わせて相談コーナーを設け、実際にクリニックを見学する参加者の方もいらっしゃいました。(3) 「わたしが紹介したい認知症の人の本」ブックレビューの募集では、応募した書評が京都市のwebサイト(https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/book_cmsfiles/1783/book.html)で公開されています。



デジタルブック



図書館特別展示

■ 地域の方のフレイル・オーラルフレイル予防 KOKA☆オレンジサロン

今年度も KOKA☆オレンジサポーターズが開催するKOKA☆オレンジサロンが2か月に一度(5/14、7/9、9/17、11/5、1/21、3/11)開催されました。右京区地域介護予防推進センターおよび右京区で活動する「すこやか元気サポーター」の方とともに、「話すこと」「食べること・飲み込むこと」の働きが低下しないよう、お口や喉の体操・介護予防体操を行っています。2018年から継続したこの取り組みには、毎回参加される方も増え、参加者と交流する学生にとって貴重な学びの機会となっています。



■ 光華もの忘れ・フレイルクリニック

2021年11月、本学構内に「光華もの忘れ・フレイルクリニック」が開院し、1年が経ちました。今後も早期相談によるもの忘れ(認知症)やフレイル予防等を目的に、地域の皆さまが安心して暮らせるよう地域包括ケアの一部として心と健康に寄り添ったクリニックを目指します。また、大学併設の施設として、介護や看護などの医療福祉に関する現場教育につなぎ、多職種連携や在宅ケア等に有効な実践力・応用力の養成を推進できる基盤を整備し、活用してまいります。今年度は、3月15日(水)に京都市葛野地域包括支援センターが主催する「地域ケア会議」において上田敬太院長が講演いたしました。





■ KOKA癒しカフェ

本学の基幹研究「認知症の予防と共生に向けた社会実装研究—京都市右京区をフィールドとした光華モデルの創出」チームと本学地域連携推進センターが連携し、下記のとおり「KOKA癒しカフェ」を開催いたしました。本企画は、介護者や被介護者本人が癒される時間を提供し、各々が自分を労り、癒される方法を学ぶことや心配事を気軽に相談する機会づくりを目的としています。

KOKA 癒しカフェ 間光館 1階	
10月29日	1. ヨガと瞑想 西川 秋子 (看護学科講師)、谷本 拓郎 (心理学科講師)
	2. もの忘れ相談 窪内 敏子 (看護学科准教授)
2月18日	1. ミニ講話「補完療法とは」 中平 みわ (看護学科教授)
	2. エネルギーヒーリング体験 森光 優 (看護学科助教)
	3. もの忘れ相談 窪内 敏子 (看護学科准教授)

基幹研究「認知症の予防と共生に向けた社会実装研究—京都市右京区をフィールドとした光華モデルの創出—	
研究担当	吉川 秀樹 (健康栄養学科)、細川 昌則・中平 みわ・呉 小玉・窪内 敏子・西川 秋子・森光 優 (看護学科)、谷本 拓郎 (心理学科)
認知症がある人の介護に取り組む家族、特に在宅で介護を行う家族等介護者のストレスマネジメント、タイムリーで適切な認知症介護者支援を進めるシステムの構築を目指す研究。今年度は、「光華もの忘れ・フレイルクリニック」のスタッフも参加し、介護者のための「認知症カフェ」と「物忘れ相談室」を実施した。	



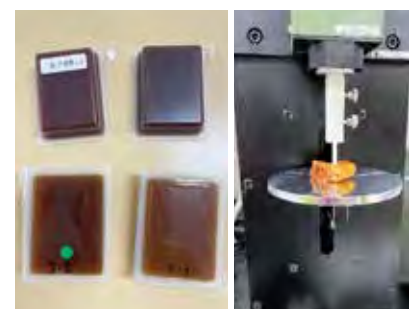
■ 「いつまでもおいしいものを食べたい！」嚥下調整食と機能性食品の開発と普及活動

健康栄養学科、医療福祉学科言語聴覚専攻、ライフデザイン学科の教員で構成された本研究チームは、2021年に京介食推進協議会との間に包括協定を結び、嚥下調整食の認定機関として物性測定によるデータの集積を開始しました。さらに、嚥下調整食及び光華ブランドの機能性食品の開発と普及活動に継続的に取り組んでいます。

基幹研究「嚥下調整食および機能性食品の開発と普及活動」	
研究担当	吉川 秀樹 (健康栄養学科)、関 道子 (医療福祉学科) 橋口 美智留・下山 亜美 (健康栄養学科) 濱田 明美・羽深 太郎 (ライフデザイン学科)
高齢者にみられる摂食嚥下機能低下や低栄養状態に対して、飲み込みやすさに配慮した嚥下調整食及び特定の機能を付加した機能性食品の開発と普及活動を産学連携によって推進することを目的とする研究。 今年度は、美濃と食品株式会社 (京都市下京区) との共同開発にて希少糖使用の羊羹の試作、青木光悦堂 (京都市山科区) から依頼の高齢者向け菓子の物性測定、京介護食推進協議会と共催の嚥下食和菓子の紹介イベント等を実施した。	



官能評価実験



希少糖使用羊羹の試作

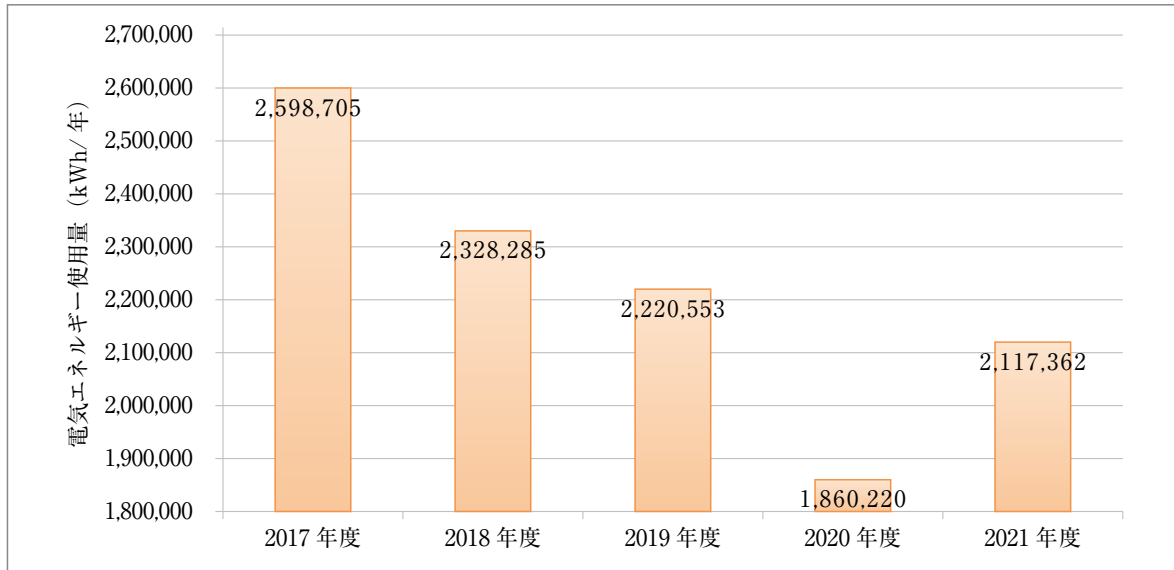
物性測定器

5. エコキャンパスの推進



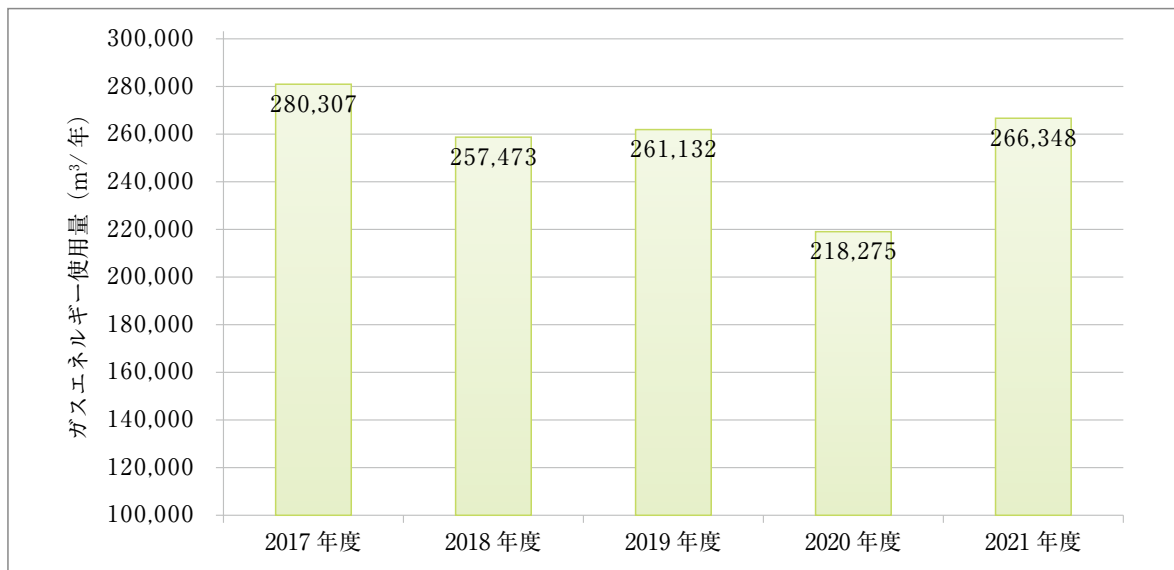
5.1 学園における各種エネルギーの使用状況と廃棄物排出量

① 電気エネルギー消費量



学園全体における過去5年間の電気エネルギー消費量は減少傾向にあります。この理由は、節電対策として高効率型照明器具（LED）の導入の他、クールビズ・ウォームビズの実施が影響していると考えられます。また、電気（以下の、ガスも同様）エネルギー消費量の半分以上が北校地（主に大学）における使用であることから、ここでの使用状況は全体に大きな影響を及ぼします。2020年度の急激な減少と2021年度の増加については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、一部対面授業が再開されたことに起因しています。

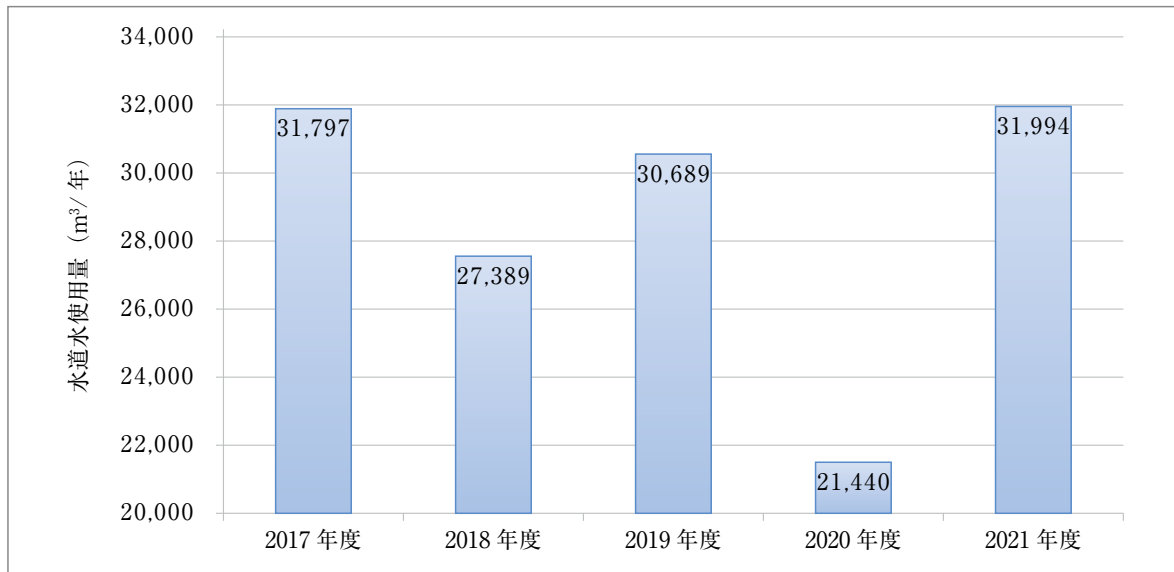
② ガスエネルギー消費量



ガスエネルギー消費量についても、電気エネルギー消費量と同じ傾向にあります。2020年度の急激な減少と2021年度の増加については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学で完全オンライン授業を実施していたものが、一部対面授業が再開されたことに起因しています。

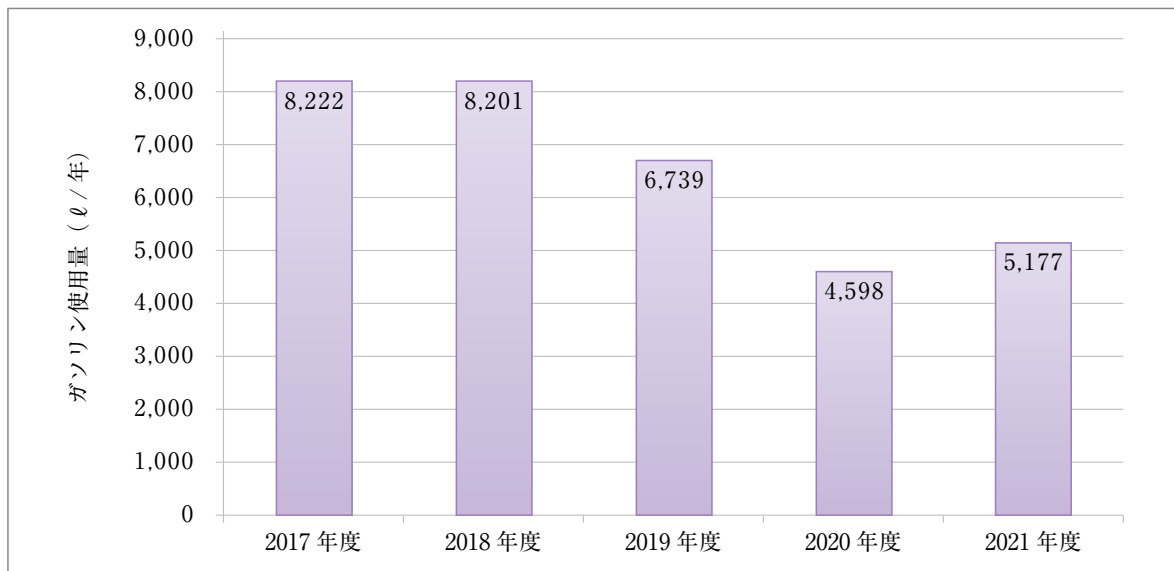


③ 水道水使用量



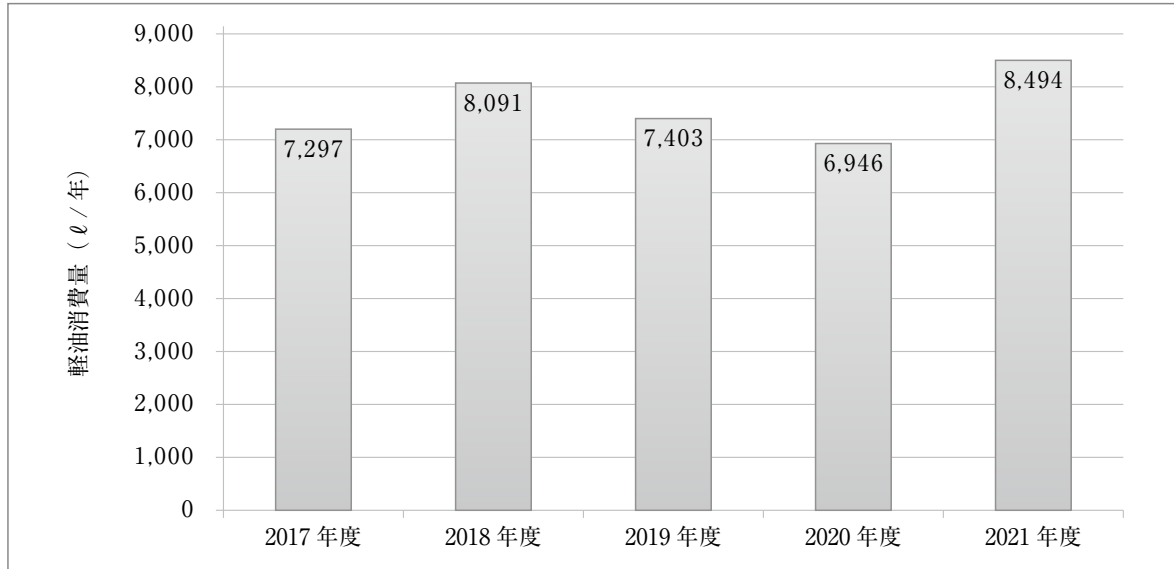
学園全体における過去5年間の水道水使用量は、2021年度が最大値となっています。電気・ガスエネルギーと同様に、2020年度の完全オンライン授業と、2021年度の一部対面授業の再開が反映された結果となっています。ただし、トイレ改修工事を実施する際、計画的に節水式のものを採用していることや、南校地（小学校・中高校）については蛇口に節水金具を装備したことなどから、2017年度以前の使用料と比較すると同図の直近5年間の使用料は減少しています。

④ ガソリン消費量



ガソリン消費量の大半は大学および中高校の学生募集活動による公用車の使用によるものです。数年前から、こまめなアイドリングストップなどのエコ運転を心がけてきたため、減少することができました。さらに、大学公用車を使用した募集活動のエリア設定の変更の他、公共交通機関を使った活動が大きく影響しているものと思われます。なお、2020年度が最小値となった背景には、新型コロナウイルス感染防止の観点から、公用車をを用いた対面での学生募集活動が制限されたことによるものです。

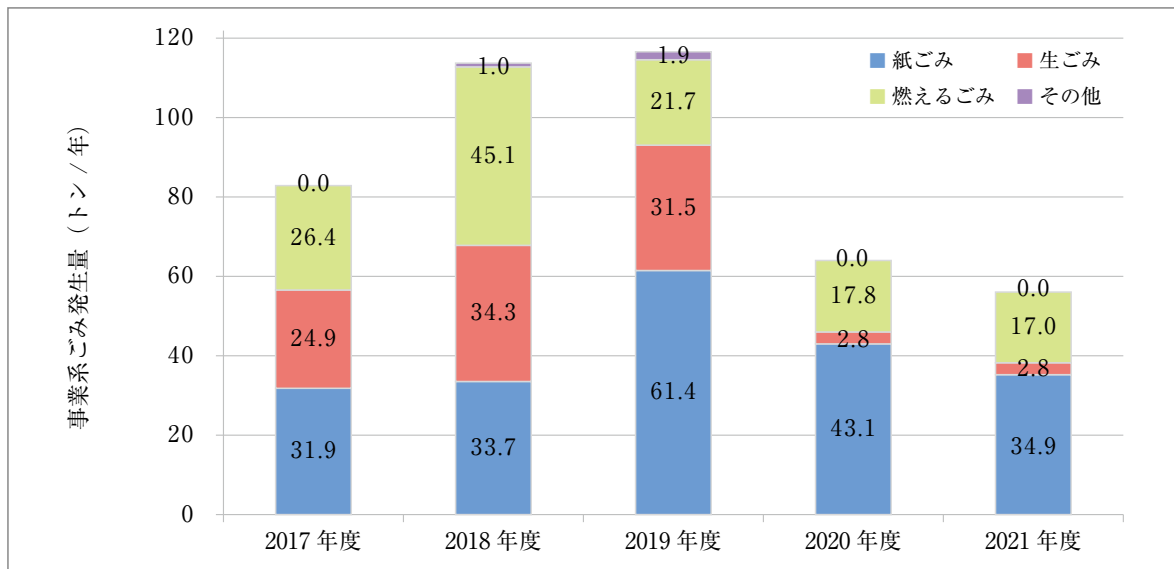
⑤ 軽油消費量



軽油消費量の大部分は幼稚園児送迎用のバス（ディーゼル車）によるものです。2020年度はこまめなアイドリングストップ等により消費量は減少しています。しかし、2021年度は幼稚園の送迎バスが、新型コロナウイルス感染防止の観点から座席を間引きし、その分の園児の送迎回数を増やしたことにより軽油消費量は増加しています。

⑥ 廃棄物排出量

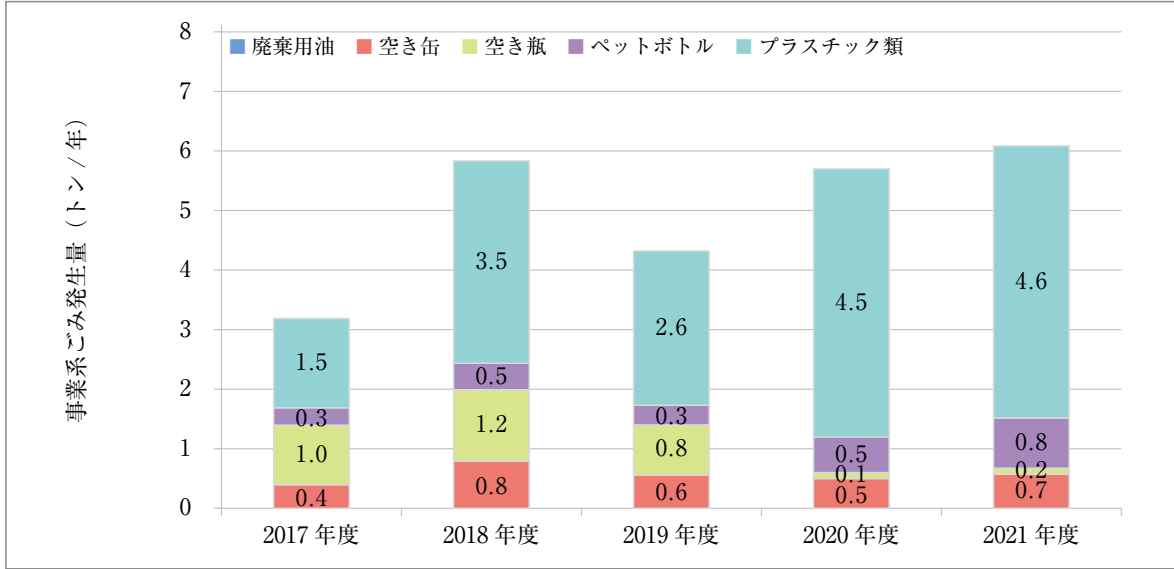
● 事業系廃棄物



2021年度は過年度に比べて、事業系廃棄物発生量は全体的に減少傾向にあります。項目別に見ると、特に全体の中でも割合の大きい紙ごみが減少しています。これについては燃えるごみ、生ごみに混在する紙ごみ（いわゆる雑紙）を分別により紙ごみとして資源化することができたことによるものです。徹底した分別により、ごみをごみとしてではなく再資源化する取組を今後も推進していきます。



●産業廃棄物



2021年度の産業廃棄物発生量は昨年度に比べて増加傾向にあります。特にペットボトルやプラスチック類の増加は、近年、問題となっている海洋プラスチック汚染にも関係するものです。KOKAエコアワードでは、「プラスチックゼロの日」が提案され、YouTubeの光華チャンネルでは、学生有志による「マイボトルダンス」などもアップされました。このような啓発を継続し、ペットボトルなどのプラスチックごみを減少させることが大切です。

5.2 KOKA エコアワード

平成22年の学園創立70周年を記念して設立されたKOKAエコアワードは、今年度で13回目を迎えました。この取組は幼稚園から大学・大学院までの本学園で学ぶすべてのものを対象とし、エコ活動を啓発する作品（エコアイデア部門、作文部門、標語・短歌（和歌）部門、ポスター部門、作品部門）を広く募集するものです。今年度は、TEAM EXPO 2025のご縁から、「第一生命特別賞」を設置しました。同社と本学は、地域社会の活性化と人材育成を目的に、包括連携協定を締結し、エコアワードにおいてもご協力をいただきました。皆様から合計1,506件の作品をご応募いただき、12月14日に太子堂にて表彰式を実施しました。1月20日～3月3日には、間光館2階キャンパスモールにて、銅賞以上の入賞作品を展示しました。

*本学はTEAM EXPO 2025の共創パートナーに登録されています。



標語・短歌（和歌）部門

100年後も200年後もその先も、みんなが生きられる地球のために

第13回

KOKAエコアワード

作品募集

金賞受賞者には、図書カード5,000円とバラ（光華）の鉢植えor花束！
今年には【第一生命特別賞】もあります

募集期間：6月20日（月）～9月30日（水）

応募資格：本学園に関係するすべての方、保護者、お取引先様、卒業生、教職員

応募方法：メールで応募またはGoogleフォーム（QRコード）に入力して応募

審査方法：一次審査で応募資格別に各部門25作品に選定し、二次審査で各分野の専門教員による選定を行います

お問い合わせ | 光華女子学園 環境教育推進室内 KOKAエコアワード事務局
075 (325) 5259 (平日9:00~17:00)
chiiki@mail.koka.ac.jp <https://www.koka.ac.jp/crc/>

TEAM EXPO 2025

ささえる。みんなで。
“共創パートナー”

【趣旨】

「エコ」という言葉は現代社会に浸透してきたものの、「エコ活動」はまだ家庭にも社会にも浸透している訳ではありません。次代を担う学生・生徒や児童・園児たちに、美しい地球、住みよい環境を継承するため、低炭素社会の実現は現代社会が取り組むべき喫緊の課題です。本学園ではそれぞれの校園において、講義、授業、課外活動やボランティア活動を通し、学齢にあった環境教育に力を注いでおり、保護者の皆様はもとより、各方面からご理解と高い評価をいただいております。

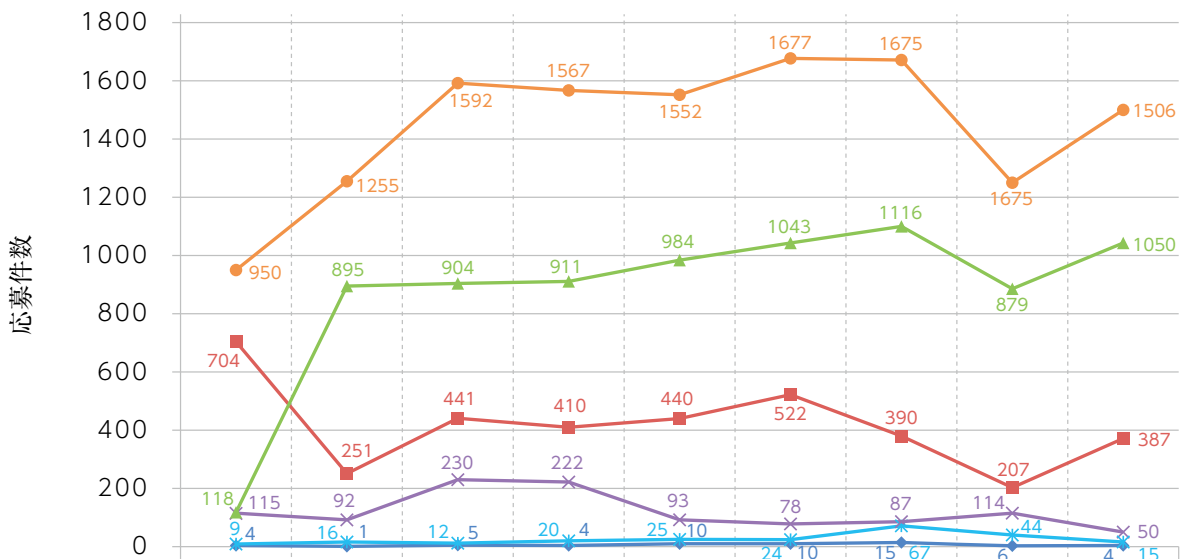
そこでこの度、院生・学生・生徒・児童・園児の皆さんにエコ意識をさらに啓発し、私たち個々が今、何をなすべきかを考え、表現するとともに、身近なところから「エコ活動」に取り組む機会として、創立70周年を迎える光華女子学園に「KOKAエコアワード」を設立いたします。

ついては、全校園よりエコ啓発の作品を募集し、優秀作品に各賞を授与、70周年記念式典において表彰いたします。併せて、学生生徒の皆さんの実践されているエコ活動も表彰したいと考えております。当日は会場内ロビーに作品展として掲出、さらに70周年記念棟（現間光館）キャンパスモールにも展示を計画いたしております。（『学園創立70周年記念「KOKAエコアワード」啓発作品募集要項』より）

作品展



●KOKAエコアワード応募作品数の推移



部門	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
◆ エコアイデア	4	1	5	4	10	10	15	6	4
■ 作文	704	251	441	410	440	522	390	207	387
▲ 標語・短歌(和歌)	118	895	904	911	984	1043	1116	879	1050
✕ ポスター	115	92	230	222	93	78	87	114	50
✧ 作品	9	16	12	20	25	24	67	44	15
● 全体	950	1225	1592	1567	1552	1677	1675	1250	1506

●2022年度受賞作品（金賞・銀賞・銅賞・第一生命特別賞のみ掲載）

※詳細は<https://gakuen.koka.ac.jp/archives/5092>をご覧ください。

①エコアイデア部門 *****



受賞者

「プラスチックゼロの日」

キャリア形成学科3年 安原 佑莉菜、藤澤 愛菜

②作文部門 *****



受賞者

「配送車風力発電」

高校2年 中村 玲於奈



受賞者

「地球の姿を届けて」

高校2年 加藤 南花



受賞者

「サステナブルな未来への挑戦」

高校1年 奥田 愛唯



受賞者

「サステナブルな未来の実現に向けて」

高校1年 藤井 奈々

③標語・短歌（和歌）部門 *****

ハ生徒・学生等の受賞作品

京のまち 戻る賑わい 試される
景観壊さぬ 礼儀と美意識



受賞者

心理学科4年 森川 奈央

地球は 生き物全ての シェアハウス



受賞者

中学校3年 竹林 歩乃香

エコバッグ 自宅待機じゃ 意味がない



受賞者

高校1年 足立 梨梨子

言いたくない 地球に昔 住んでたと



受賞者

中学校3年 原田 詩音

ハ卒業生・保護者・関係先様等の受賞作品

節電で 見えた夜空の 流星群



受賞者

第一生命保険株式会社
市瀬 健史さん

地球人 1日1エコ EARTHTEKI



受賞者

京都市消防局右京消防署
横田 実莉さん

エコバッグ 気付けば数が エコじゃない



受賞者

京都銀行西京極支店
蔓 皓一朗さん

京野菜 ぬめるお店を エコ虻原



受賞者

みずほ証券株式会社京都支店
須賀 結加さん

^教職員の受賞作品v

食材を 使い切ることに 意識して
いつのまにやら 料理上手に

金賞
受賞者
キャリア形成学科
佐藤 嘉洋

まだ捨てぬ うちのオカンの「取っておき」
発想一つで ゴミを道具に

第一生命
受賞者
高校 間浦 幹浩

節電を「我慢」ととらず「くせ」とする

銀賞
受賞者
小学校 矢野 雅東

ウニのカラ 畑にまいて 肥料とす
次のいのちに つながる気持ち

銅賞
受賞者
地域連携推進センター
小竹 梓

4 ポスター部門 *****



金賞
受賞者
「守ろうきれいな海を」
小学校 6年 石浦 千聖

受賞者
「旬のやさいをたべよう」
幼稚園 年長 小川 門土



銅賞



受賞者
「解け続ける 永久凍土」
高校 3年 宮本 真洸

銀賞

5 作品部門 *****



金賞
受賞者
「再生キャンドル」
小学校 5年 掃部 真



銀賞

受賞者
「SDGs ゴミを分別しよう!!」
幼稚園 年長 奥田 結愛



受賞者
「きれいなしぜんをたいせつにしよう」
幼稚園 年長 山田 麗子

銅賞

6. 各校園の環境教育、 環境活動





6.1 光華幼稚園

① 食育

野菜、果物の栽培収穫

みんなで種や苗から育てた野菜や果物がこんなに大きくなりました。

今年もたくさん野菜ができて、子ども達もとても喜んでいました☆彡

野菜が苦手な子ども達も、種や苗から植えてお世話をする事で、野菜を食べられるようになるので不思議です。栽培を通して育てる苦労や収穫の喜びを感じ、食べ物を大切にする気持ちが芽生えます。



～プチトマト～



高いところはバスの運転手さんに抱っこしてもらいました！



美味しそうなトマトがたくさん採れました！！



～ブルーベリー～

ブルーベリーを採りました！

小さいですがみんなで力を合わせて見つけることができました！！



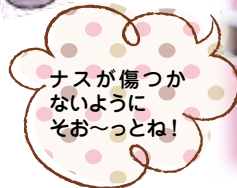


～かぶの種～

こんなに小さなかぶの種から、お水をあげてお世話をしてこんなに大きなかぶが抜けました！！



良い匂いがするみかん！
ハサミで切って収穫しています！



②自然に触れよう

①花の種まき

年中組では春にミニひまわりの種を植えました！

土に肥料を入れて混ぜるところから始まることで、肥料を均等に混ぜることや、花が咲くことを楽しみにしながらお世話をしていました。



とってもきれいなひまわりが咲きました！



②明後日朝顔プロジェクト

地域連携推進センターの「明後日朝顔プロジェクト」で朝顔をみんなで育てました♪小さな種をまき、水やりも頑張ったのでとてもきれいに咲き、子ども達も大喜びでした！



朝顔の種をまきました！



たくさんお世話をしてこんなに立派な朝顔が咲きました！



～朝顔の花で色水づくり～



朝顔の花をこする強さによって濃淡ができ、1つ1つ違う色水ができました！

秋には「ムスカリ」と「チューリップ」を植えました。

～土に肥料を混ぜています～



～自分の分の土をすくっています～



他にも自然に触れ合う姿がたくさんありました！





3 エコ活動

廃材の再利用

ペットボトル、トイレットペーパー、段ボールや新聞紙などが大変身！！廃材は、子ども達にとって楽しいおもちゃであり、様々なものに変化できます。

大人にとっては不用品、日頃は捨てるようなものを使っていろいろな遊びを展開し、素敵な作品づくりをしていきたいと思えます♪

年少児は、チラシや新聞紙を使ってミノムシを作りました♪



木の色も子ども達が塗りました♪



トイレットペーパーの芯にチラシを貼っています！

～かわいいミノムシができました♪～



生活発表会に使う小道具を段ボールや新聞紙を染めて作りました！



新聞紙を染めて大きな石づくり♪



段ボールがレンガの家に♪



大きな木を作っています！



英字新聞を木の枝に見立てて貼りました！！



ペットボトルを再利用し、どんぐりバックに！

6.2 光華小学校

① 光華環境DAY（9月16日）

光華小学校が9月16日（金）、17日（土）に開催した「おおきに祭」において、全学年の児童が「光華環境DAY」として環境学習に取り組みました。この学習では、環境に関する話を聞き、グループで意見を交換したり、作品をつくったりしながら、学齢に合わせて環境問題について考えました。



① 東未来さんの話

zoomにて、環境問題について発信している現在高校3年生の東さんに、世界を取り巻く環境問題について詳しく話していただきました。小学生の頃から環境問題に関心がある東さんは、日本で出生後、世界7か国で育ち、ドイツの環境団体「Plant-for-the-Planet」に所属されています。大量に出るプラスチックゴミの問題について学び、今自分の周りを取り巻く問題は、自分自身が招いているのだということに気付かされました。その上で、原状を回復していくために、今の自分に何ができるかを子どもたち自身も考える契機になりました。

5、6年生はSDGsについても学習し、人間が今までに克服してきた問題と今克服しなければならない問題について考え、「〇〇克服物語」を作成しました。まとめとして、その問題がSDGs17の目標のどの項目に位置づけられるかをグループで整理し、SDGsについて理解を深めました。

② 各学年の取り組み

[1・2年生] …身の回りのプラスチックでできているものを探し、プラスチックの問題点について考える。

[3年生] …地球温暖化について知り、それに関わるカルタづくりをする。



[4年生] …地球温暖化によって引き起こされる災害について知り、防災について考える。



【5・6年生】…SDGsについて考え、自分たちの意見を交換する。



② エコに関する作品の取り組み

今年は、夏休みの宿題として、環境問題に関わる作品作りに取り組みました。作品は、廃材を使った工作、手提げ袋やスリッパといった日用品、環境保全の啓発ポスター、短歌、俳句など多岐にわたりました。作った作品は「KOKAエコアワード」の「ポスター部門」「作品部門」に出品し、2名の作品が、金賞（ポスター部門）と銀賞（作品部門）を受賞しました。

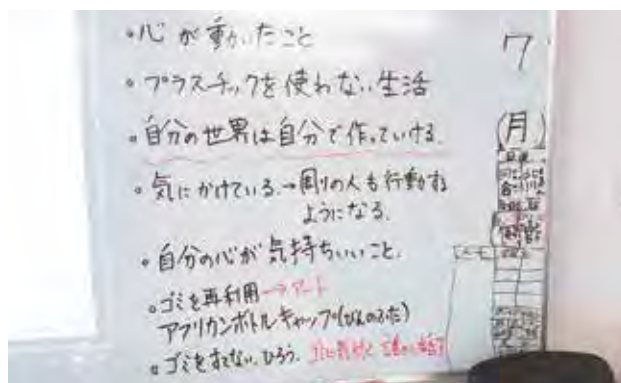
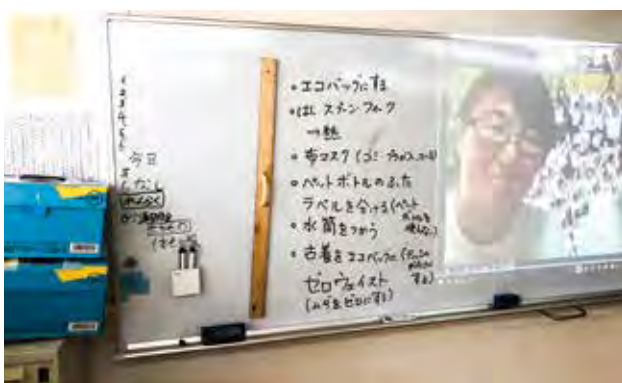


◆ 小学校環境委員会の取り組み

・ 東未来さんとのミーティング

今年度の環境委員会は、4年生4名、5年生6名、6年生8名の計18名で構成され、定期的に委員会を開き、環境保全に関する意見交流や、取り組みについて話し合いをしています。

そこで、今年は、「光華環境DAY」での東未来さんの話を受け、環境教育に関するより具体的な取り組みや今後小学校でどのようなことができるかを東さんを交えて話し合う機会を設けました。それをもとに、環境のために今の自分にできる取り組みを考え、その実践報告をまとめ、発表をする準備を進めています。





6.3 京都光華中学校・高等学校

コロナ禍において様々な活動が制限される数年間を過ごしましたが、今年度は中高それぞれで交流を含んだ活動ができました。

①【高校】 京都+ベンチャーにて：SDGsボードゲーム

今年度より新課程が始まった高校生では、1年生全クラスで「京都+ベンチャー」と銘打って探究学習に取り組んでいます。京都にある様々な魅力を知る機会として、「SDGsボードゲーム」（一般社団法人未来技術推進協会提供）を授業内で実施しました。ベンチャー企業、大学、慈善団体などの様々な立場で資金をやりくりしながら、SDGsの目標を達成するための様々な取り組み・ミッションを協力して達成していくゲームを通じて、実際に京都で行われている様々な取り組みを知ることができました。その魅力をもっと良いものにするために、年間を通して班で考え、実際の団体にインタビューしながら、提案を作っています。



SDGsボードゲームをしています



資産の共有・協業も求められます



振り返りでは取り組み事例を熟読



事例を見ながら、問い、課題を探します

②【中学】 中学生サミット in KAMOENAI：原発のごみ処分やエネルギー問題について考える



全体会の様子

本校の中学生2名が京都光華の代表として、全国から集まった中学生と原発のごみ処分問題などについて考える「中学生サミット in KAMOENAI（北海道神恵内村）」に参加しました。北海道の泊原発を実際に見学したり、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する文献調査を行っている神恵内村を視察したりしながら、一緒に参加した中学生と対話・意見交換する中で、「原発のごみ」問題をだんだんと他人事ではなく、自分事としてとらえられるようになっていきました。この取り組みの成果は、校内の文化祭でも展示され、来校者や生徒に発表することもできました。



ディスカッションの様子



神恵内村の海をバックに



3日間のまとめを発表しています

6.4 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部

JST支援事業「女子中高生の進路選択支援プログラム」(2期目)が採択されました。

女子中高生の理系進路選択支援プログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の次世代人材育成事業のひとつです。このプログラムは女子中高生の理系への進路選択を支援すること目的としています。採択テーマ「リケジョ育成のためのプログラミング教育と実験的学び～環境と防災をテーマとして～」を通じて、2期目も多くの女子中高生の皆さんに、理系の学びを体験していただきます。さらに、今期は、これまでの環境と防災をテーマにしたプログラミング教育と実験的な学びに加え、VR(仮想現実)の技術を取り入れた、ウイルス感染などの社会情勢に左右されない力強い教育体制を目指します。ここではその中でも今年度の特徴的な取り組みをご紹介します。



VR(仮想現実)の技術を取り入れた、ウイルス感染などの社会情勢に左右されない力強い教育体制を目指します。ここではその中でも今年度の特徴的な取り組みをご紹介します。

① プナ・アシウスギ天然林サイエンスツアー2022の開催

2022年7月10日(日)、高校生(女子8名、男子13名)、教員2名、保護者3名を対象に、「プナ・アシウスギ天然林サイエンスツアー2022」を実施しました。京都市内にある京都光華女子大学から北に約35キロ(マイクロバスで約2時間)、京都府美山町にある京都大学芦生研究林は、手付かずの自然が残っている日本で屈指の天然林のひとつです。

今回は芦生研究林の林長である石原正恵先生他、スタッフのご指導のもと約1時間半のフィールドワークを実施しました。石原先生からは最新の森林学の研究内容のみならず、ご自身の女性研究者としてのキャリアなどをお話いただきました。さらに、高校生には今後の環境・防災学習で使用するVR動画の撮影にも協力してもらい、この動画のナレーションにも挑戦いただきました。

まるで映画「もののけ姫」の世界のような、大自然に囲まれてのフィールドワークは、環境問題や防災を学ぶだけでなく、都会の喧騒を離れた自然を感じることで、普段のストレスを忘れさせてくれる貴重な時間でもありました。



② グリーンサイエンスツアー2022の開催

2022年7月12日(火)、高校生6名、中学生1名、教員1名を対象にグリーンサイエンスツアー2022を行いました。

最初は、本学教員から地球温暖化や砂漠化などについて、現地調査資料をもとに講義を実施し、植物による炭素固定能力など生物学的観点から学習しました。講義の後は、キャンパス内にあるプランタに夏の花を植えて寄せ植え体験をしました。当然、花にも二酸化炭素吸収能力があり(最も高い能力を持つのは「ラン」とされている)、これらの花を植えることによる環境負荷低減が期待できますが、何より、美しい花は人の心を癒してくれます。

最後に、教室に戻った参加者は理系進路の魅力に関する動画を視聴し、自分の進路について今一度考えるきっかけとなりました。





③ 地球環境クライシス（帝塚山学院高校での出張講義）

2022年8月27日（土）、女子高校生13名、教員1名を対象に「地球環境クライシス」をテーマにした出張講義を実施しました。

講義の前半は、気候変動に関する将来予測や、海水面の上昇について、IPCC第6次評価報告書のデータを引用しながらシミュレーション結果を共有しました。後半は、国内外のエネルギー問題について、日本の再生可能エネルギーのポテンシャルと問題点などについてクイズを交えながら学びました。地球環境問題について社会的側面からアプローチし、理工学的観点から核心に迫る講義となりました。



④ 数値で見る京都の環境問題（北稜高校での出張講義）

2022年9月16日（金）、北稜高校2年生女子生徒10名、教員4名を対象に、「数値で見る京都の環境問題」と題して、出張講義を行いました。

この授業では、京都府内における二ホンジカの頭数が増加傾向にあることに触れ、その被害状況の他、捕獲した鹿肉のゆくえ、そして生息数の集計の仕方などを統計学的観点から教示しました。さらに、竹林面積の拡大と、荒廃した竹林による被害状況を説明し、化学・農学的観点から竹の有効利用法に関する内容を教員の研究成果を交えながら述べました。このような社会的な入り口から、少しでも理系に興味を持ってもらえたらと思います。



⑤ 里山サイエンスツアー2022の開催

2022年9月18日（日）、京都大学上賀茂試験地において、里山サイエンスツアー2022を開催しました。中学1年生1名、高校1年生5名、高校2年生1名、高校3年生3名、保護者2名、教員2名の方にご参加いただきました。

最初は本学教員からJSTプログラムの概要説明があり、続いて、上賀茂試験地の赤石先生より試験地の歴史や背景についてご説明いただきました。フィールドワークに先だって、「竹」と「松」の貴重な資料が展示されている資料室を見学し、世界の植物について知ることができました。中にはこどもの頭ぐらいのサイズはありそうな巨大な松ぼっくりを見ることができました。

続いて、フィールドワークでは、目的地に向かう途中で生息している「きのこ」の説明を伺い、森の中のきのこの役割について知ることができました。また、67年に1度開花するとされるモウソウチクの花も見ることができ、とても貴重な体験をすることができました。

最後の質疑応答では、高校の先生から「文理に迷っている生徒に対する指導方法」や参加した高校生からは「これは何のきのこ？」など、今回の趣旨やフィールドワークに関する内容のご質問をいただきました。当日は台風接近中の大変不安のある天候の中、何とか無事にツアーを終えることができました。





⑥ 2022年度上半期定例会の実施

2022年10月4日、オンラインにて本プログラムの上半期定例会を実施しました。

定例会には、京都府教育庁指導部高校教育課 田中誠樹 総括指導主事、京都府立北稜高等学校 松原久 先生、京都府立東稜高等学校 糟野譲司 先生にご参加いただきました。

最初に実施期間である京都光華女子大学からプログラムの目的やこれまでの実施内容について、特に、新たに作成した理系進路選択動画（主に保護者向け）や高校生と協働で制作したフィールドワークのVR動画を紹介させていただきました。続いて、本プログラムにご参加いただきました高校の先生方からは、これまでのご指導の経緯や、参加した生徒の印象、意識変化などについてご説明いただきました。



また、教育委員会様からは、高校教育現場における理系進路選択における期待の高まりの他、文理に囚われない学際領域の必要性、さらには保護者を巻き込んだ取組の重要性についてご教示いただきました。

いただきましたご意見を参考に、今後も本プログラムの改善を図ると同時に、地域の中高校と連携した取組を展開していきたいと思っております。

⑦ VRと実験を通じた環境・エネルギー教育

2022年10月6日（木）、東稜高校2年生36名（女子6名、男子30名）、教員2名を対象とした環境・エネルギーに関する授業を行いました。

最初に、本学教員から環境教育を目的として、開発したVR動画を使って、森林における環境問題に関する授業を実施しました。専用ゴーグルを使うことで、360度どこを見ても天然林に身を置いているような感覚で学ぶことができました。次に、大阪科学技術センター（OSTEC）（本プログラムの協力機関）から、エネルギー教育をテーマに、発電所で電気が作られる仕組みや、水素エネルギーについて、実験を通じて授業を実施しました。電気がどのように作られているのか、各発電のメリット・デメリット等について学ぶことができました。最後に、学んだ内容をもとに、日本の将来の電源構成について考えました。



VRと実験を通じた環境・エネルギー教育で、少しでも理系進路に関心を持ってもらえたらと思います。



7. 第三者によるご意見

7.1 地域連携報告書に寄せて

本報告は、大学、短期大学部としての「地域連携報告書」と幼稚園、小学校、中学校、高等学校を含めた学園としての「環境報告書」が、合体した形で構成されています。

地域連携においては、大学、短大の各専門分野を融合し、高齢者福祉、子育て支援、まちづくりデザインをはじめとした多彩な分野がテーマに取り上げられ、右京区役所をはじめとする行政や地域団体、事業者と継続的な連携を行う中で、着実に信頼関係を構築されています。

新型コロナ禍による制約も少なからずあったと拝察しますが、これまでの活動実績を生かした粘り強い取組を展開されていることに拍手を送ります。

また、全校種を繋ぐ学園として、それらの活動を「環境」というテーマでまとめている点で、決してゴミ問題や自然環境などに限定された課題ではなく、日々の暮らしを、世代を越えて、どのように充実させていくのかという大きな意味で、「環境」を捉えていることが見て取れます。

光華女子学園が、学生や児童・生徒の独自の視点や軽快なフットワークによって、生き生きと活動を展開され、持続可能な社会を実現するために、地域に根差し、地域を変え、地域を動かす原動力となることを願って止みません。

レジリエント・シティ京都市統括監
元京都市副市長
藤田 裕之



7.2 環境報告書に寄せて

光華女子学園の環境報告書を拝読し、光華幼稚園、光華小学校、京都光華中学校・高等学校及び京都光華女子大学・同短期大学における環境をコアにした教育がしっかりとなされておられるところ、10年来の環境教育推進室の取り組みが確実に実を結びつつあるものと思料しました。

具体的に申し上げますとすれば、貴学の環境教育は、生徒さんたちに寄り添う形でかつ生徒さんたちが主体的、能動的に参画することを念頭に作り込まれています。義務的に与えられた課題をこなすのではなく、まさに高野室長が本報告書の冒頭で仰っておられますように、「明るく楽しいエコキャンパス」の実践がなされているところに大いに感銘を受けました。

また、生徒さんの環境教育のみならず、地域共生・社会貢献の観点からも、コミュニティーに溶け込む形で実施されていること、すなわち、地域との一体感の中で教育が実践されているところが素晴らしいと評価します。

いずれにいたしましても、今後ともにSDGsをペースとするGX等の社会実装が進展する中で、かかる環境教育研究のより一層の推進が図られますことを心より祈念申し上げます。

学校法人新潟総合学院 開志専門職大学
副学長（学長代行）・教授 櫻井 繁樹,Ph.D
京都大学名誉教授 同特任教授





健やかな明日が華ひらく

地域連携推進センター教職員

吉田 咲子（センター長・大学 キャリア形成学科） 加藤 千恵（副学長（社会貢献担当）・大学 キャリア形成学科）
土佐 嘉宏（副センター長） 橋詰 侑季（センターマネジャー）
小竹 梓（センター職員） 山元 綾子（センター職員）
染澤 倫子（センター職員）

地域連携推進委員会

水道 裕久（大学 健康栄養学科） 貞岡 美伸（大学 看護学科）
徳田 仁子（大学 心理学科） 関 道子（大学 医療福祉学科）
佐藤 嘉洋（大学 キャリア形成学科） 山崎 玲奈（大学 こども教育学科）
羽深 太郎（短期大学部 ライフデザイン学科）

環境教育推進室教員

高野 拓樹（室長・大学 キャリア形成学科） 間浦 幹浩（中学校・高等学校）
中野 誠（小学校・中学校） 野村 由衣（幼稚園）

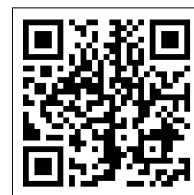
京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 地域連携報告書
光華女子学園 環境報告書 令和4年度版

令和5年3月

編集・発行 京都光華女子大学 地域連携推進センター・環境教育推進室

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38
URL：<https://webetc.koka.ac.jp/use/crc/>

本報告書へのご意見・ご感想をお待ちしております。
お問い合わせ：chiiki@mail.koka.ac.jp



地域連携推進センター
ウェブサイト

この報告書の表紙は、今年度KOKAエコアワードのポスターイメージに合わせています。2020年度版はホッキョクグマ、2021年度版はニホンジカ、今年度版はオオサンショウウオと、環境問題に関連する生物が選ばれています。



学校法人光華女子学園

京都光華女子大学大学院

京都光華女子大学

京都光華女子大学短期大学部

京都光華高等学校

京都光華中学校

光華小学校

光華幼稚園